

太陽電池モジュールの輸送効率改善

島崎晃治*

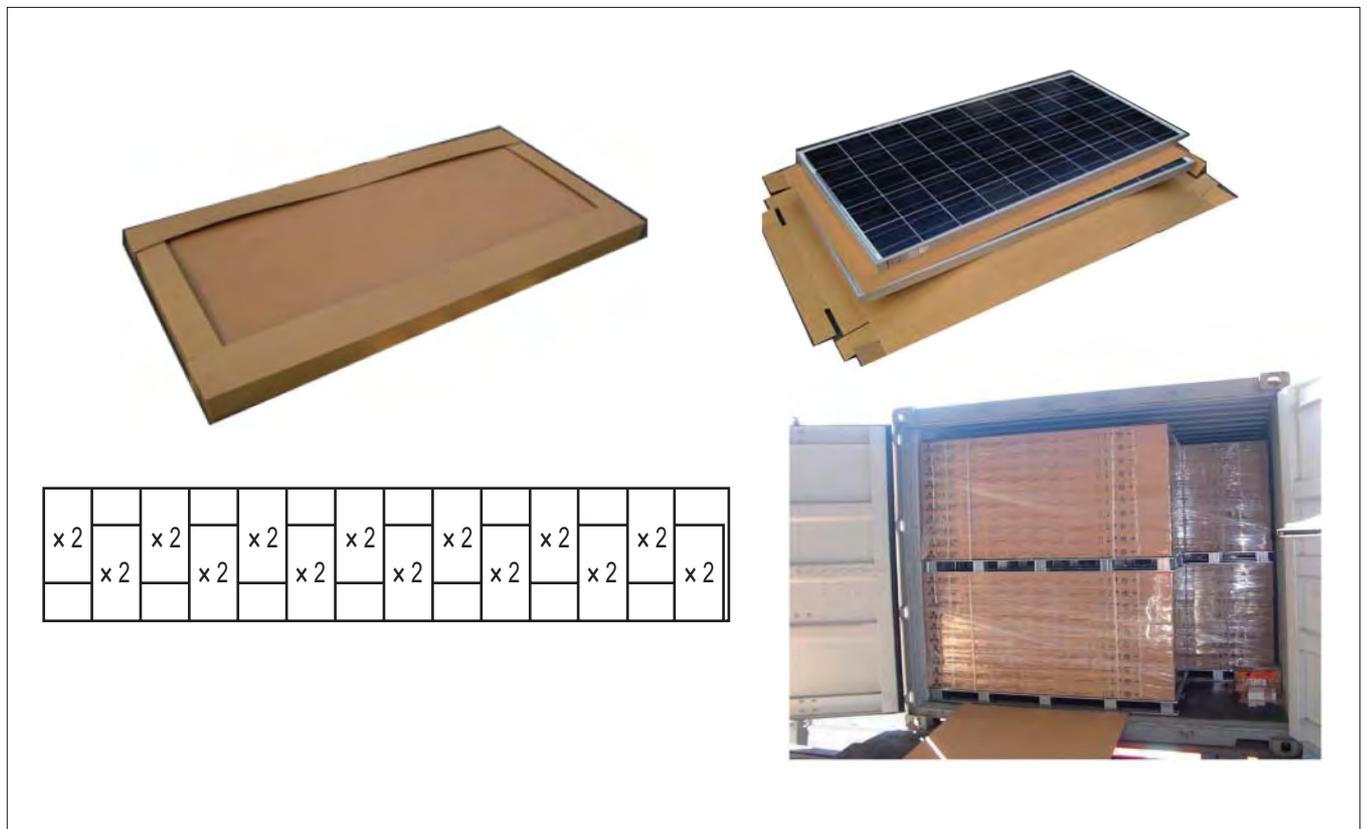
Improvement for Transportation of Photovoltaic Modules

Koji Shimasaki

要 旨

近年、環境への意識の高まりから、太陽光や風力といった再生可能エネルギーの導入が促進されている。太陽光発電分野では、現在世界各国で導入促進のための施策が整備され、とりわけ欧米で導入量が急速に増加している。一方、太陽電池モジュールの生産の多くを、三菱電機を含めた日本のメーカーが担っている。そのため、輸出に伴う輸送効

率の改善はますます重要となってきた。今回、海外向け太陽電池モジュールの梱包(こんぼう)に用いている段ボールの薄板化やパレットサイズの縮小といった梱包仕様の変更とコンテナへの積載形態の改善によって、コンテナ当たりの積載枚数を約35%改善し、太陽電池モジュール1枚当たりの輸送エネルギーを約20%低減した。



海外向け太陽電池モジュールの輸送効率改善

(上)海外向け太陽電池モジュールの梱包形態。段ボールの薄板化と形状変更によって、梱包時の高さ・幅を最小化している。
(下)海外向け太陽電池モジュールの40ftコンテナ内配置図(天面から見る)と実際の収納状態(右)

*中津川製作所